ICM からのレポート in　2018 年下半期

—ICM 西太平洋、東南アジア、東地中海 3 地域合同会議

谷口初美

ICM West Pacific 代表／

九州大学大学院医学研究院保健学部門

看護学分野（助産学・母性看護学）教授

2018 年の下半期、ICM は、世界中で ICM の活動を精力的にアピールしている。その大イベントの 1 つが、2 件の地域会議（①3 地域合同会議：9 月 6～8 日 in ドバイ、②南北アメリカ地域会議：11 月 7～9 日 in パラグアイ）である。この間に、9 月下旬の米国・ニューヨークでの国連総会、10 月にはブラジル・リオデジャネイロでの FIGO（国際産婦人科連合）にも会長以下、理事が出席した。

地域会議は、2017～2020 年までの ICM 戦略的目標（**質、公平性、リーダーシップ**）を地域に行き渡らせる目的で開催される。今回の 3 地域合同会議の概要は、加盟団体の日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会から報告されるので、私はオーガナイザーの 1 人としての視点から報告する。

出席者は、37 ヵ国から約 200 名と小規模であったが、学術集会（約 80 演題で日本からは 6 演題）と各地域会議では、その内容の充実ぶりと参加者の熱意によって予想以上に盛会となった。今回は中東ドバイでの開催であったが ICM 本部主催による初めての 3 地域合同会議となった。財政面や開催地との交渉等による伝達の遅れと地域会議の関心の薄さが小規模に繋がった要因であった。地域別参加者は、西太平洋(60 名)、東南アジア(47 名)、東地中海(37 名)で、国別上位は ICM 2020★本会議のホスト国であるインドネシア(25 名)と、日本（14 名）、バングラデシュ(11 名)であった。

オープニングセッションでのヨルダンの王母 Muna 殿下のメッセージは、中東の母子保健に積極的に貢献している殿下ならではの力強い助産師職能への敬意と励ましと支援であった。また、会場で賑わう助産師の熱意と活発な活動も相まって、開催会場の医学大学総長に助産プログラムの新設を促す絶好の機会となった。このことは、助産師が少ない中東の地で開催した大きな成果となった。また、ICM 戦略的目標のリーダーシップに関する Franka Cadée 会長の講演では、世界の助産師のリーダーとして岡本喜代子前日本助産師会会長が紹介された。

最終日の西太平洋地域会議では下記の内容が協議され、活発な発言があった。

①地域内の伝達：伝達プラットフォーム構築

②次期地域からの ICM 候補者：従来通りで立候補

③次期地域会議の形態、候補地：3 地域合同ではなく西太平洋単独で開催（立候補はパプア・ニューギニア、香港）

④ICM 戦略目標（**質、公平性、リーダーシップ**）：ICM Global Standards による質の向上を加盟団体だけでなく非加盟団体へも伝達する努力、母子保健政策面への参加など

これらの結果は後日 3 地域合同会議のサマリーとして ICM から報告される。

今回の地域会議の様子は ICM ホームページから写真や動画で閲覧できる（https://internationalmidwives.org/ および https://www.midwivesdubai2018.org/）。

★3 年毎大会（2020 年 6 月 21～25 日　インドネシア・バリで開催予定）

会場の The Mohammed Bin Rashid Medical Center の総長（左）とヨルダン王母 Muna 殿下（右）

ICM の Franka Cadée 会長（左）とヨルダン王母 Muna 殿下（右）